

平成 24 年度鳥取県中部沿岸土砂管理協議会意見に対する対応状況

主な意見とその対応状況

委員からの意見	今後の対応
【天神川左岸】	
小鴨川の河床掘削で発生した土砂について、流砂系の観点から、海岸部への流用を協力したい。	北栄町とも連携し、砂だけでなく礫分を含む土砂の受け入れを視野に体制（地元、漁協調整等）を整え、長期安定を図っていききたい。
【北条川放水路周辺】	
北条川放水路左岸に浜崖が発生したことについて、礫分の多い、動きにくい土砂を投入するなど、土質に着目した土砂管理が必要。浸食傾向に注視しながら対応していくべきである。	礫・玉石を多く含む河床掘削土砂等の効果は大きいと考えており、今後も土質に着目した土砂管理を関係機関相互の連携を図り、侵食傾向を注視しながら対応していききたい。
【由良川河口部】	
由良川河口の埋設ブロックを一部撤去したことにより、河口に土砂が堆積するようになったため、サンドリサイクルのやり方を見直す必要がある。	H24.7 に埋設ブロックを一部撤去により河口部に土砂堆積が確認されたが、H25.3 の土砂撤去以降、現時点までほとんど堆積は確認されていない。今後も河口の堆積動向を注視し、必要に応じて対応していききたい。
【由良川左岸】	
加勢蛇川河口等、この周辺に堆積している礫・玉石の動きを把握するため、沿岸方向に粒度を調査した方が良い。	現状で大きな河口閉塞は生じていない。深浅・汀線測量は引き続き実施。沿岸方向での粒度調査の実施は今後検討する。
逢東船揚場の砂の堆積がひどいので、原因を検討して欲しい。	港湾などと同様に堆積状況を注視しながら、引き続き対応していく。
【全体】	
土砂の粒径に着目した土砂管理が必要。	必要な調査、範囲等を特定したうえで今後検討する。